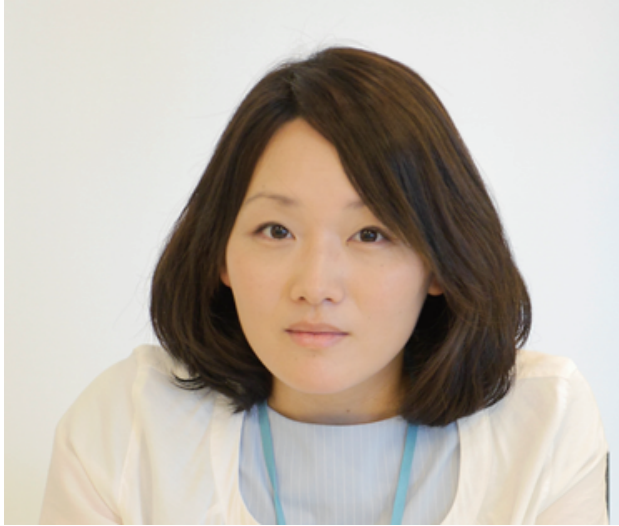


データは「もとになる数は何か」を考える



～テレビ視聴率の調査～

(株式会社ビデオリサーチ)

長谷川 晃子さん

テレビの視聴率を調査し、視聴率のデータを使ってどんなことができるかの提案をする仕事をしています。視聴率は、テレビがある世帯のうち、何世帯がその番組を見ているかを表したものです。地区ごとに調べていますが、たとえば関東地区と関西地区では調査エリア内にある世帯数が異なるので、同じ1%であっても、1%が示す世帯数は違います。また、平日の昼間など、テレビを見る世帯が少ない時間帯の1%は、多くの世帯がテレビを見ている時間帯の1%より、その時間帯にテレビを見ている世帯全体の中での占める割合が高いとも言えます。

「%」のデータを扱うときには、「もとになる数は何か」にいつも気をつけています。算数の割合（百分率）、平均、単位量あたりの大きさの考え方を日々使っています。割合（百分率）の学習は苦手だった記憶がありますが、小学校の算数で習うこの内容をしっかり身につけることが、仕事だけでなく、たとえば日常生活の買い物場面などで、とても役に立つと感じています。

